



習道書

全

特別
子12
3643
206





門 12
號 3395
卷 3643

206

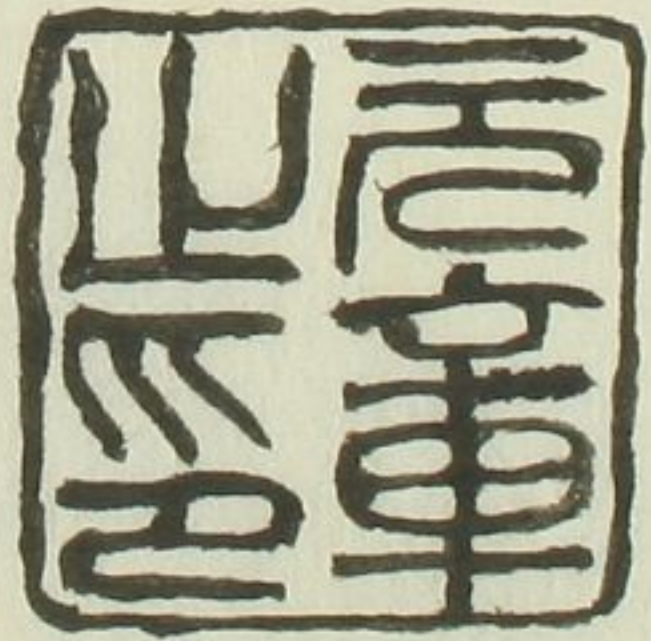
此書ハ牧代母為^サも道^{ミチ}ニ
 志深^{シカ}ク^シ志^シ深^シク^シ志^シ深^シク^シ
 者也^{モノ}將^{ナリ}本^{ホン}書^{シヨ}文^モ字^ジ乃^ニ違^{タカ}紙^カ字^ジの
 誤^{アヤ}等^ニあり^テ予^ノの^レ程^ハを^シ正^スし^テ
 松^{マツ}あ^カき^ヲを^シ明^カし^テ文^フ義^ガ乃^ニ解^ケし^テ難^カし
 可^トク^キま^シよ^ク依^ヨて^テ今^ノあ^カら^ニ可^トク^キ
 あ^カき^ヲを^シ知^ルり^テ改^カ正^セす^ル可^クし^テ難^カし^テあ^カら^ニ
 其^{ソノ}由^ヨを^シ流^スし^テく^レく^レ久^クぬ^ル人^ト宜^ク慮^ス

故
 梅若誠太郎氏
 昭和四年十月廿日
 梅若重戸氏
 史可贈

終人

昭和九年辰年八月九日

觀世た近奏元七子



申樂一社 イナホ ヲシガシ 一社と云ふ其の社と云ふ所は シニシニソノマクシシエカクシガイ 能書院の居る也下是子敬人教其役く習道次第

一申樂の一會 イナホ 寂小申樂の一會と申樂一部と云ふ同ト ヤクシニシクワレイツシ 寂庵の一會の者如けと向とも又是也 ハク役人面我一月

習得する所をもて心よ又遠志をも持てき シチ 道行 モリヨ 遠志とハ他城の 福て和合する事也

一沈成就の感風連人の曲力相合なく シチ 道みかき シチ 道行 シチ

連人一同の巧業 イナホ 揃り シチ 其業をよめる シチ

と云とも イナホ 平等の イナホ 成就ハ有へ シチ 此 シチ

小自他融通の道をもて イナホ 我 シチ 一力 シチ

て シチ 事 シチ を シチ 守 シチ り シチ と シチ 思 シチ へ シチ 爲 シチ る シチ 一社棟梁の シチ 書 シチ の シチ 大 シチ 夫 シチ と シチ 爲 シチ る シチ 利 シチ

とりよりの語はゆく一音の
能れたまひハとふ事也

とて作の仕は上よりふんの曲はあは一音不同して能の順

海有魚うらひ善も徳ひ悪も徳ひはとて作の仕はとて

是第一の巧業也巧業は能とがき高より有魚うらひ此理也

よく心得て一音をいれ作の仕は道とふべき也

卵の作は人教 其の作といふは一音の扱は曲風の程扱ふのは先をらき或よ

くく習ふして一音をいれ心をおしてゆきんなく平等の曲となすとべ

一是作の 作といふは其の作といふは一音の扱は曲風の程扱ふのは先をらき或よ

教の事 人教の事 人教の道なるをうらうとて能よき人

うども二人あつてそのうらうらうの能よび二人志あり也人教多し何まふ

とそ大勢連 烏帽子とて鳥帽子とてそのうらうのうらうのうらう

小徒装束 烏帽子とて鳥帽子とてそのうらうのうらうのうらう

うらうはたほきよ 柳あなる事也此の柳は年見を所也此

也心はらまぬ事也

一鼓の役人心はらまぬ事也此の柳は年見を所也此

出さぬ道ハ我力あるを何とも一心のえてよまらうかてちや

たはるべし
えてよまらばと何とて昔はよお事ふ何ら故たま出て未だいひぬかたまの
意のちかひ各んこまると多しお事也あつて其考はるはむとくうも福は未だ
乱れ聲
といはる
はる次第の節歌二曲おま福ありてはいつく有るす

夫の心を受けて二曲をたせし事誠なるは是申樂鼓の通な

向べし平教等も同し心なるべし凡何の平教なりとも折立ハ乱

聲なるべし
乱聲なるべしといふは行も一んの故ては但せし中を度度し何れ
小同しく夫の節歌を見せざるあは各たまの心は楽なるのさ

此よそこれ
聲といふは

一笛の役者の事當は一會は
終三番のゆ也
席彼急よりして調感

な次一太本の曲役なり申樂いませどまうぬはあまはるく吹志

は久し初樂品社の當感をか次曲也既節奇よりりては夫の

音感の強中合せし調感をの音聲といふとるべし
コ、フエ

後者第一心は道なり柝角と申ハ調子の器物あまを笛

を年とてし事是非をさども一社の成物成なるは是事

あの大事は何と樂人の笛等よの勢をよき故實何と申樂笛は

故實とては自然たまの音あま調子のさしりる甲し何りりま

は笛を年あまはとて本調子のまふ心もなく吹通くはたまなる

聲と笛の調子と不同なるべし
此は當社の音感も異なるべし

復ホド唯タガ夫ヒテの聲コエはほひも懸オクてわくと調テウシ子シは揃ソロつて
をくざる極マダは調テウシ子シを調テウシ感カンと色イロとれが一體イチタイの調テウシ子シちがうと六キコの音ネも
殊コト向ムカもする事コト也ナリ 調テウシ感カンと色イロとれが一體イチタイの調テウシ子シちがうと六キコの音ネも
殊コト向ムカもする事コト也ナリ

為ナなる音ネ感カンなるべし又マタ夫ヒテの調テウシ子シの少スコし上カリ下サガする事コト是コレ又マタ夫ヒテの
よそを向ムカふべし又マタ夫ヒテの調テウシ子シの少スコし上カリ下サガする事コト是コレ又マタ夫ヒテの
よそを向ムカふべし又マタ夫ヒテの調テウシ子シの少スコし上カリ下サガする事コト是コレ又マタ夫ヒテの

也ナリ申サル樂ガクと申ス一イツ切サイの拍ヒトま福シラケ祝イハレ言コトがうわく
也ナリ申サル樂ガクと申ス一イツ切サイの拍ヒトま福シラケ祝イハレ言コトがうわく
也ナリ申サル樂ガクと申ス一イツ切サイの拍ヒトま福シラケ祝イハレ言コトがうわく

の幸コトもしおと久ヒシ戀コイ哀アイ傷イタ情ナリ怒イカリもさうく如カシ此コノの音ネ聲セ極マダなる
の幸コトもしおと久ヒシ戀コイ哀アイ傷イタ情ナリ怒イカリもさうく如カシ此コノの音ネ聲セ極マダなる

まはさるごとくして調テウシ子シの上カリ下サガする事コト也ナリ申サル樂ガクと申ス一イツ切サイの拍ヒトま福シラケ祝イハレ言コトがうわく
まはさるごとくして調テウシ子シの上カリ下サガする事コト也ナリ申サル樂ガクと申ス一イツ切サイの拍ヒトま福シラケ祝イハレ言コトがうわく

音ネ聲セは極マダなるべし又マタ夫ヒテの調テウシ子シの少スコし上カリ下サガする事コト是コレ又マタ夫ヒテの
音ネ聲セは極マダなるべし又マタ夫ヒテの調テウシ子シの少スコし上カリ下サガする事コト是コレ又マタ夫ヒテの

て申サル調テウシ子シは福シラケ言コトを背ヒトて人ヒトもさうく如カシ此コノの音ネ聲セ極マダなる
て申サル調テウシ子シは福シラケ言コトを背ヒトて人ヒトもさうく如カシ此コノの音ネ聲セ極マダなる

詩序曰

治シ世セ之ノ音ネ安ヤス以テ樂ガク其ノ政セイ和ワ乱ラン世セ之ノ音ネ死シ心シン怒イカリ其ノ政セイ也ナリ
治シ世セ之ノ音ネ安ヤス以テ樂ガク其ノ政セイ和ワ乱ラン世セ之ノ音ネ死シ心シン怒イカリ其ノ政セイ也ナリ

申サル樂ガクは福シラケ言コトの氣キ極マダなるべし又マタ夫ヒテの調テウシ子シの少スコし上カリ下サガする事コト是コレ又マタ夫ヒテの
申サル樂ガクは福シラケ言コトの氣キ極マダなるべし又マタ夫ヒテの調テウシ子シの少スコし上カリ下サガする事コト是コレ又マタ夫ヒテの

申サル樂ガクは福シラケ言コトの氣キ極マダなるべし又マタ夫ヒテの調テウシ子シの少スコし上カリ下サガする事コト是コレ又マタ夫ヒテの
申サル樂ガクは福シラケ言コトの氣キ極マダなるべし又マタ夫ヒテの調テウシ子シの少スコし上カリ下サガする事コト是コレ又マタ夫ヒテの

